

北九州市感染症発生動向調査感染症週報

令和7年第30週(令和7年7月21日～令和7年7月27日)

<発生動向>

第30週の百日咳の報告は17件あり、累計249件(うち0歳24件)となりました。重症化リスクの高い乳幼児へ感染させないよう感染対策をお願いします。詳しくは、別紙をご参照ください。

腸管出血性大腸菌感染症の報告が2件あり、累計9件となりました。加熱不十分な牛肉等や生野菜、井戸水等から感染することがあるため、食品はしっかり加熱して食べましょう。

伝染性紅斑の定点当たり報告数は、2.15と6週連続警報レベルが続いています。

また、新型コロナウイルス感染症の定点当たりの報告数は、6.22と先週より増加しています。咳エチケットやこまめな手洗い、マスク着用など基本的な感染予防をお願いします。なお、ヘルパンギーナの定点当たり報告数は1.85と従前の警報レベルの終息基準値「2」を下回ったため、警報解除となりました。

■ 全数把握疾患報告

病名	北九州市		福岡県		全国(前週)	
	報告数	累積報告数	報告数	累積報告数	報告数	累積報告数
結核	2	99	15	419	247	7,639
腸管出血性大腸菌感染症	2	9	7	110	148	1,324
E型肝炎	1	2	1	4	10	338
アメーバ赤痢	1	2	1	12	3	258
梅毒	2	74	12	438	188	7,715
百日咳	17	249	118	2,210	3,908	52,490

■ 定点把握疾患報告数

病名	北九州市			福岡県		全国(前週)	
	報告数	定点当たり	定点当たり(前週)	報告数	定点当たり	報告数	定点当たり
新型コロナウイルス感染症	143	6.22	2.61	646	5.30	12,069	3.13
インフルエンザ	18	0.78	0.61	81	0.66	1,146	0.30
急性呼吸器感染症	982	42.70	46.00	82	1.17	207,629	54.03
RSウイルス感染症	7	0.54	0.77	82	1.17	1,180	0.50
咽頭結膜熱	12	0.92	1.00	41	0.59	1,306	0.56
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	34	2.62	4.92	149	2.13	5,179	2.20
感染性胃腸炎	86	6.62	9.00	344	4.91	12,454	5.30
水痘	0	0.00	0.08	24	0.34	799	0.34
手足口病	6	0.46	0.38	19	0.27	1,395	0.59
伝染性紅斑	28	2.15	2.54	203	2.90	4,881	2.08
突発性発しん	7	0.54	0.54	31	0.44	816	0.35
ヘルパンギーナ	24	1.85	6.46	78	1.11	4,401	1.87
流行性耳下腺炎	1	0.08	0.08	2	0.03	131	0.06
急性出血性結膜炎	0	0.00	0.00	0	0.00	9	0.01
流行性角結膜炎	2	0.33	0.50	12	0.46	616	0.88
細菌性髄膜炎	0	0.00	0.00	0	0.00	8	0.02
無菌性髄膜炎	0	0.00	0.00	2	0.13	26	0.05
マイコプラズマ肺炎	9	4.50	4.00	12	0.80	474	0.99
クラミジア肺炎	0	0.00	0.00	0	0.00	3	0.01
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1	0.50	0.50	1	0.07	8	0.02

※データは速報値として公開するものであり、後日修正される場合があります。

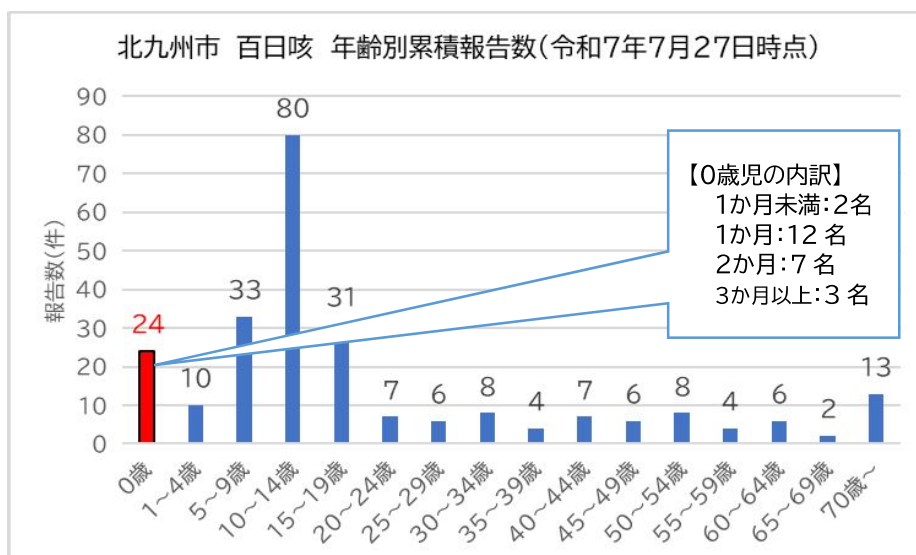
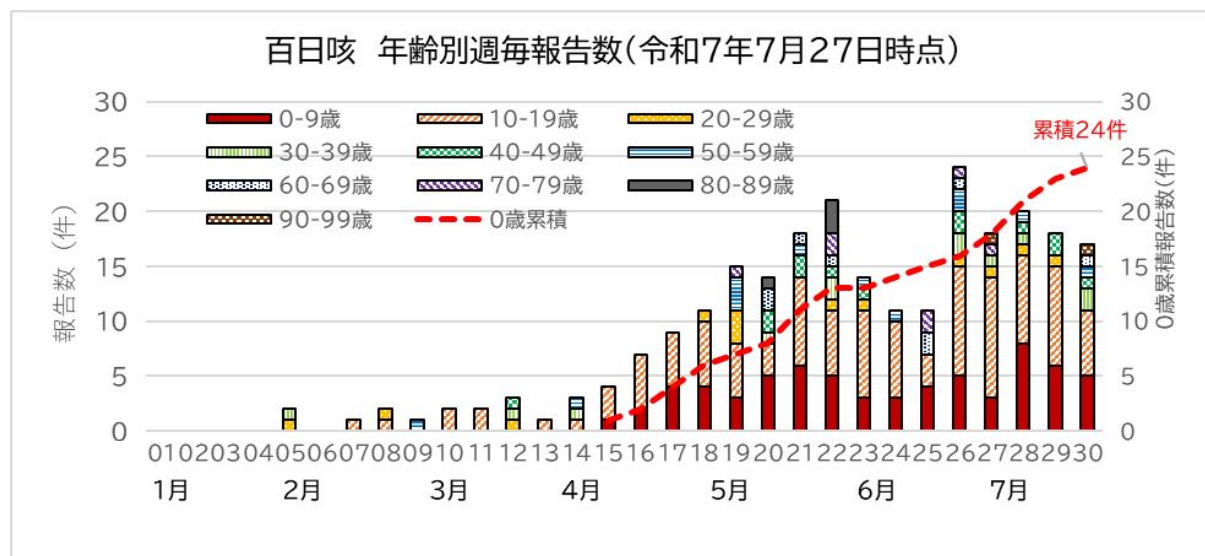
※全国のデータについては、更新時期が北九州市および福岡県の翌週となるため、前週の情報を掲載しています。

○北九州市感染症情報ホームページ(<https://www.city.kitakyushu.lg.jp/ho-huku/18300149.html>)もご参照下さい。

百日咳流行が続いています！

～0歳児の感染を防ぎましょう～

令和7年第7週(2月10日から)以降、百日咳の報告が続いており、7月27日時点で0歳児の報告数は累積 24 件になりました。母親からの免疫が十分でないため、新生児や乳児期早期から感染すると、重症になり、肺炎、脳症を合併し、まれに死に至ることもあります。



乳幼児への感染を予防するため、下記の感染対策を心がけて下さい。

- 生後2カ月から定期接種として可能な5種混合ワクチン等が乳幼児の感染予防に最も重要です。
(注意)ただし、0歳児の報告の多くは定期予防接種前のお子さんですので、下記の対策も重要です！
- 乳幼児や妊婦へ感染させないよう、家庭内でも手洗いや咳エチケットなどの感染対策を心がけましょう。
- ワクチン接種から年数が経過した青年・成人は感染する可能性があります。咳が続くときはすぐに医療機関を受診しましょう。

北九州市保健福祉局保健企画課